

●先端技術公開セミナー 13:00~14:30

「次世代太陽電池「色素増感太陽電池」の現状と研究開発への取り組み」

講師 樋口 和夫氏 株式会社豊田中央研究所 エネルギー創生・貯蔵研究部光材料研究室 室長

共同研究者 豊田 竜生氏 アイシン精機株式会社L&Eシステム開発部 主査

地球環境やエネルギーセキュリティの観点から、再生可能エネルギーの有効活用が叫ばれている。その有力候補は太陽電池であるが、発電コストが高いために現状の普及は補助金等の後押しに頼らざるを得ない。今後の大量普及に向けて開発が進められている次世代太陽電池として、環境に優しく、低コストが期待され、色調が可変という特徴を有し、シリコン太陽電池と異なる原理で発電する色素増感太陽電池(DSC)を豊田中央研究所とアイシン精機は共同で開発を進めている。DSCを取り巻く開発の現状を世の中の動向も踏まえて紹介する。

2013年度 名古屋大学大学院

情報科学研究科 公開セミナー 受講料無料

●基盤研究公開セミナー 15:00~17:30

「論理～哲学と情報科学の狭間で」

「論理に基づく問題解法」

「現代論理学がいかにして始まったか(の一断面)」

講師 酒井 正彦教授

よく電車の中でマスに数字を書き込んでパズルを楽しんでいる人を見かけます。これらは決められたルールを満たすように数字などを埋めていく、論理パズルと呼ばれています。これらのパズルはどのようにして作られているのでしょうか？ 具体例を紹介しながら、これらを支える技術の一つの充足可能性判定ツールとそこで使われている論理に迫ります。

講師 戸田山 和久教授

19世紀末に、数学の基礎に困ったパラドクスが見つかって、それをきっかけに数学を厳密な論理的基盤の上に構築し直そうということになり、現代数理論理学が始まった。…みたいな話をよく聞きますが、これってよく考えてみるとヘンではないでしょうか。パラドクスが見つかったのは、数学論理学に還元しようという論理主義のプロジェクトのなかで、だったのですし、そのときにはまだ論理学ははっきり形をとっているわけでも、認識論的に厳密だと思われていたわけでもないで…。じゃ、本当のところはどうだったのか、という点について私見をお話します。



開催予定日 2013. 9.27 (fri)
13:00-17:30

開催場所 名古屋大学IB電子情報館
中棟015講義室

大学院情報科学研究科 広報渉外委員会
お問合せ先 担当 庶務掛 052-789-4716 gsis@is.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学大学院情報科学研究科主催